

経済学用語集

# 労働者錯覚モデル

講師：加藤 真也

# 労働者錯覚モデル マネタリスト(古典派寄りの考え) (フリードマン, フェルプス)

: 労働者は名目賃金 $w$ の変化を、  
実質賃金 $\frac{w}{p}$ の変化と一時的に  
錯覚するために労働供給量 $N_S$   
を変化させる 貨幣錯覚

⇒ AS曲線が右上がりである理由や、  
自然失業率仮説の説明に使われる

# 前提 (労働者錯覚モデル)

実質賃金  $\frac{w}{P}$  も観察できる

① 企業は名目賃金  $w$  も物価  $P$  も観察できる

⇒ 実質賃金  $\frac{w}{P} \uparrow \rightarrow$  労働需要量  $N_D \downarrow$

② 労働者は名目賃金  $w$  は観察できるが、  
物価  $P$  は観察できない

⇒ 労働者の予想物価  $P^e$  (期待物価) とし、  
期待実質賃金  $\frac{w}{P^e} \uparrow \rightarrow$  労働供給量  $N_S \uparrow$

物価  $P$  が変化しても  
労働供給量  $N_S$  は不変

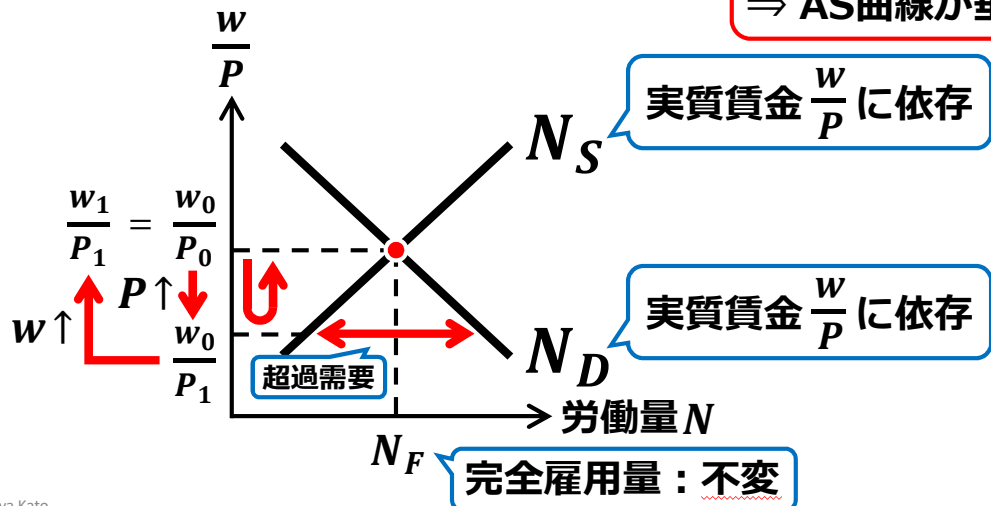
長期 :  $P^e = P$

③ 長期的には労働者は正しく物価を予想

# ・労働者が $P \uparrow$ を正しく予想

⇒ 通常の古典派のケース

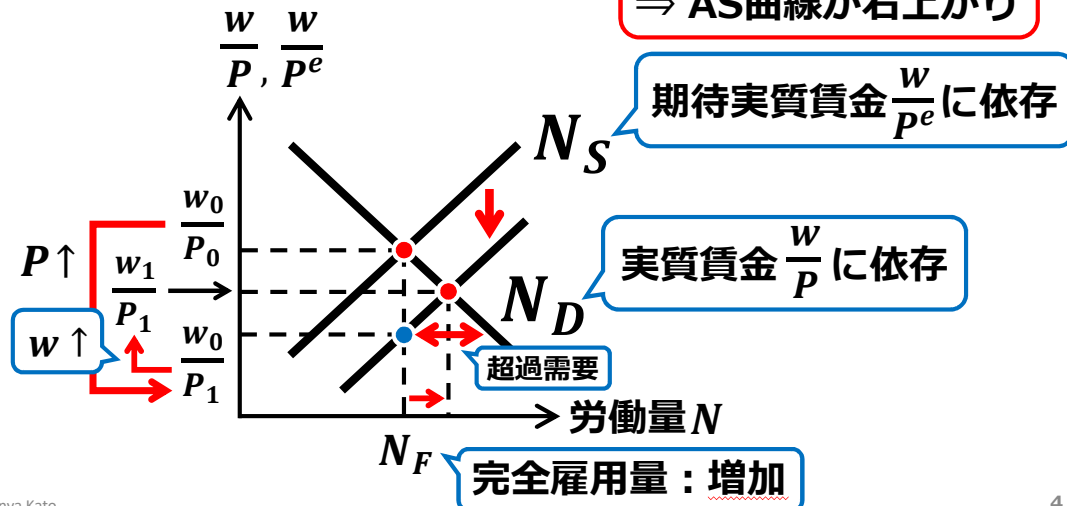
$P \uparrow \rightarrow Y_F$  で不変  
⇒ AS曲線が垂直



# ・ 労働者が $P \uparrow$ に気が付かない

⇒ 労働者錯覚モデル

$P \uparrow \rightarrow Y_F \uparrow$  (短期)  
⇒ AS曲線が右上がり



# まとめ(労働者錯覚モデル)

Step1 物価 $P$ の上昇 → 実質賃金 $w/P$ の下落

Step2 労働需要量 $N_D$ の増加

Step3 労働市場で超過需要

Step4 名目賃金 $w$ の上昇

Step5 労働者は $w \uparrow$ を実質賃金 $w/P$ の上昇と勘違いをする：貨幣錯覚

Step6 労働供給量 $N_S$ を増加させる

Step7 完全雇用国民所得 $Y_F$ の増加

労働者は $P \uparrow$ による  
実質賃金 $w/P$ の下落に  
気付かないので(期待実質賃金は不変)  
労働供給量 $N_S$ を減らさない

期待実質賃金 $w/P^e$   
は上昇している

# 右上がりのAS曲線の導出理論

- ① **名目賃金硬直モデル**(ケインズ)  
⇒ **不完全雇用均衡**(労働市場は不均衡)
- ② **労働者錯覚モデル**(フリードマン, フェルプス)  
⇒ **完全雇用均衡**(労働市場は均衡)
- ③ **不完全情報モデル**(ルーカス)
- ④ **価格硬直モデル**(ニュー・ケインジアン)